

5/29

関東道の駅連絡会

市文化センター小ホールで、関東甲信地方にある道の駅関係者約150人が集まり、通常総会が開催されました。連絡会は道の駅相互の連絡を図り、駅の利便性の向上等を目的に組織されています。

通常総会のあと、「道の駅と地域活性化」をテーマに研修会が開催され、道の駅常陸大宮～かわプラザ～を核とした周辺地域での活動が紹介されました。その後、かわプラザに場所を移し、現地見学と交流会が行われました。



▲研修会の様子

6/8

雪村顕彰会総会

市文化センターで雪村顕彰会第2回総会が開催され、記念講演として、常陸大宮市史編さん古代・中世史部会の橋本慎司さん（栃木県立美術館）による「関東水墨画と雪村」と題した講演が行われました。講演では、現存する作品を紹介しながら、水墨画の流派が京都から関東へ伝わる過程と、その中で描かれた雪村作品の特徴について語られました。来場者の多くは、雪村の作品が持つ多様な魅力にひきつけられていました。



▲記念講演の様子

6/8

身近な水環境を観察

岩崎地区付近の久慈川河川敷で、市内の小学生を中心に16人が参加して水質・水生生物調査（主催：市環境市民会議）が行われました。全国水生生物調査は、川に住む生き物を採集し、その種類を調べることで水質（水のごよれの程度）を評価し、環境問題への関心を高めるため全国的に実施されています。

久慈川には、カゲロウやトビケラ、ヒラタドロムシなどが生息していることから、透明度が高くきれいな川であることがわかりました。



▲いろいろな水生生物を見つけたね

6/15

ひたまる先生会ワークショップ

おおみやコミュニティセンターでひたまる先生会ワークショップが開催されました。今年度のひたまる先生会では「健康」をテーマに掲げ、食・スポーツ・心の講座を実施します。第1回は、食の「そば打ち体験講座」で、長嶋光行さんを講師に迎え、24人の参加者が受講しました。パラオ共和国の柔道選手とコーチも参加され、市民と一緒にそば粉のこね方からゆで方のコツなどを教えていただきました。参加者同士の交流もあり、温かいイベントとなりました。



▲おいしく作れたかな？

5/30

洪水時避難訓練を実施しました

市として初めての洪水時避難訓練を実施しました。住民や関係機関等約180人が訓練に参加し、予想以上の成果を得ることができました。この訓練は、久慈川の堤防（霞堤）が未整備な世喜地区を対象に洪水時の避難訓練を実施して、自助・共助を基本とした住民の避難要領の確立と防災意識の高揚を図ることを目的としました。

訓練は、集中豪雨に伴う災害発生のおそれが高まったという想定で、午前6時に職員の招集から訓練を開始して、8時に災害対策本部会議、9時30分に避難勧告を発令しました。



▲避難者の輸送

住民の避難は、約120人の住民が訓練に参加し、避難場所に指定した大宮東部地区コミュニティセンターに避難をしました。避難した住民は、避難者受付、市職員による健康相談、災害対応資機材・パネルの展示、防災用DVD視聴等を体験しました。この訓練では、陸上自衛隊が避難者の輸送支援や大宮警察署が避難地域の防犯パトロールを訓練として実施し、関係機関との連携を確認することができました。また、要配慮者施設への通報連絡訓練を実施して、災害時の連絡要領を確認しました。



▲避難所に避難する住民

6/17-19

小瀬高校生が花器制作

県立小瀬高校で、常陸大宮大使の陶芸家菊地弘さんを講師に招き、全校生徒が参加し花器を制作しました。菊地さんは「ものを作る作業は、頭と手を使い何もなかったところから自分で作る。それは創造するということが社会に出ると大事なことです。創造し達成感を得て自信につなげて欲しい」と話していました。

参加した生徒からは「難しかったけど貴重な経験でした」と声が聞かれました。完成した花器は、10月に行われる開校120周年記念式典で、花や枝物を生け展示されます。



▲オリジナルの花器制作に取り組む生徒

6/22

観光ガイドの会

常陸大宮市の良さをひとりでも多くの皆さんに知っていただきたい、市に誇りと愛着を持って、市の魅力を伝えたいという目的で観光ガイドの会を立ち上げ、国体100日前イベントから活動を開始しました。今後は、毎月第2水曜日に講習会等を行い、道の駅常陸大宮を拠点として活動を行います。また、イベント等の要請にも随時対応します。8月末日まで会員募集をします。興味のある方はお問い合わせください。

問合せ：道の駅常陸大宮 ☎58-5038（担当：鈴木）



▲常陸大宮市の魅力をPRしました